

響が非常に少なくなっています。

また、当社は駆除後の処理にも力を入れています。害虫・害獣被害の再発を防ぐために、侵入箇所を塞ぎ、殺菌・消毒・消臭・清掃を行います。コウモリやイタチといった害獣は、一度巣を作ると帰巣本能が働き同じ場所へ戻ってくる習性があるため、特にしっかり侵入箇所を塞ぎます。害獣が巣を作った場合には、毛や粪などが散乱しています。それを放置するとダニやノミが発生し、人間の生活スペースに侵入してくるため、殺菌・消毒などの後処理が非常に重要になります。

最近では気候変動の影響からか、冬に活動しないとされていた害虫・害獣の被害が冬に発生したり、出現する時期が変化しています。加えて、今の建物は冷暖房や断熱材といった設備が整っており、一年中通して屋根裏などに害虫・害獣が住み着くリスクが高まっているため、注意が必要です。

食の安全をサポート

一食品衛生管理コンサルティングについて教えてください。

船津：元々食品工場の害虫駆除を行っていましたが、消費者の食に対する安全意識の高まりや、何度も害虫駆除を行っても、食品工場自体に衛生観念が根付かないと思われる発生は収まらないと感じ、食品衛生管理コンサルティング事業を始めました。

お取引先は主に精米工場です。何年も精米機の解体清掃をしていない工場だと、機械の中に米ぬかが溜まり蟻のように固まっていることがあります。そのぬかの内部に害虫が生息していたり、卵を産み付けたりすると、固まったぬかが隠れ蓑になってしまって殺虫剤が届かず、害虫が生き残ることがあります。また、殺虫剤が届いたとしても十分な量でなかった場合は、害虫が生き残りなおかつ抵抗性を持つことで、殺虫剤が効きづらくなります。

そこで当社では機械を解体・清掃して米ぬかな

どを除去し、殺虫作業を行うことで害虫の駆除と再発の防止に取り組んでいます。また、同時に経営者に工場管理や害虫発生防止についてアドバイスしたり、食品工場の従業員さんらを集めて30分から1時間程度の勉強会を行うなど、衛生管理に関するコンサルティングを行っています。

その中で、HACCPやISOの認証を取得したいとの意向をお伺いすることがあり、認証取得のお手伝いもしています。

兄弟で新型コロナウイルス感染症対策の消毒専門組織を設立

—2020年5月に「NBK 感染症対策研究所」を設立されましたね。

船津：新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、日頃から殺菌消毒業務を行う我々が、「何か社会に貢献できることはないかと考えていました。また、他の消毒業務を行う会社の施工事例を見ると、様々な作業を行う業者もあり、このままだと感染者の増加に歯止めがかからないのではないかとの危機感を持ち、新型コロナウイルス感染症の消毒専門組織として「NBK 感染症対策研究所」（以下、対策研究所）」を設立しました。

この対策研究所設立は、共に社会の不安を少しでも解消できるようにという考え方から、私の双子の弟が社長を務める、岐阜県の株式会社防除研究所と一緒に取り組みました。



西日本エリアからのご依頼は日東防疫が、東日本エリアからのご依頼は防除研究所が担当しています。西日本エリアでは、大分県内のオフィスや病院だけでなく、九州各県、中国・四国地方など幅広い地域からご依頼をいただけたようになりました。

業務内容としては、人が接触する箇所のアルコール消毒や消毒液の散布、さらに陽性者が確認された現場では次亜塩素酸ナトリウムの散布・塗布を行います。以上の作業を風評被害防止の観点などから、2時間以内に素早く完了させることを徹底しています。

また、陽性者が発生した現場は消毒が終わるまで業務停止となりますので、私たちはお客様が一刻も早く業務を再開できるよう常に消毒作業の準備を整えています。具体的には、お客様から「PCR検査を受けて結果の判明を待っている」という連絡をいただくと同時に、検査の結果を待たず、また消毒のご依頼をいただけたか否かにかかわらず、消毒業務にあたる従業員を確保し作業道具を準備します。検査の結果が判明し消毒のご依頼があった場合はその日の夜、遅くとも翌日の早朝に現場に行き消毒を行います。遅いときは午後8時から、早いときは午前6時から作業することもあります。従業員の確保が難しい場合は私が自ら作業します。

防護服の中は非常に暑い上に、陽性者が現れた現場では防護服を脱いで休憩ができないため、従業員の体調にも留意しながら作業を行っています。

ポリシーは「スピード感」と「お客様目線」

一事業を行う上で大切にされていることはありますか。

船津：大きく2つあります。1つ目は「スピード感」です。当社のスローガン「スピード感を保ちながら、人とのふれあいを大事にする」にもある

ように、スピード感は特に大切だと考えています。ハチやヘビの駆除は、すぐに対応しなければ人が襲われ、命に関わることがあります。屋根裏に害獣が住み着いた場合も、害獣が発する音や臭いが気になり、落ち着いて生活することができないという方も多いです。

また、新型コロナウイルス感染症の消毒業務においては、陽性者の発生により停止した業務を、一刻も早く再開させたいと考えるのは当然だと思います。

そのような、スピーディーな対応をして欲しいというニーズに応えることがお客様の満足度向上に寄与し、ひいては当社の利益にもつながると言えています。

2つ目は「お客様目線」です。当社は、お客様のお宅に訪問する際の従業員の身だしなみに常に気を配っています。訪問時にワイシャツ、ネクタイ着用はもちろんのこと、訪問する現場ごとに着衣を交換しています。これにより、他の現場の害虫などを持ち込む恐れがなくなります。

見積や施工のためにお宅に伺う際も、靴下のまま上がるのではなくスリッパを持参したり、最近では新型コロナウイルス感染症対策の観点から、作業を終えて帰る際に従業員が触れた箇所の消毒を行ったりしています。

また、常に社用車や機材の汚れ、車内の整理整頓などに注意を払い、従業員の見た目や行動だけでなく、お客様の目に触れるもの全てにおいて不快感を与えないようにしています。

取り組みを継続するうちに、お客様からは「作業時に服を着替えるなどきちんとしており、信用することができた」「心配りが行き届いて感心した」など、お褒めの言葉をいただき成果を実感しています。

ただし、これで完璧とはまだ思っていません。さらに改善できる部分がないか従業員と話し合い、お客様にどのようにしたら喜んでいただけ